

IPh02015 理論第 2 問 (T-2) 【解答】 極値の原理¹

(A1) 力学的エネルギーの保存則より,

$$\frac{1}{2}mv_1^2 = \frac{1}{2}mv_2^2 + V_0 \quad \therefore \quad v_2 = \left(v_1^2 - \frac{2V_0}{m} \right)^{\frac{1}{2}}$$

(A2) 境界線上では dV/dx に比例する撃力が $-x$ 軸方向に働く。ここから速度の x 成分 v_{1x} のみが増加を受ける。速度の y 成分は変化しないから, $v_{1y} = v_{2y}$ 。したがって,

$$v_1 \sin\theta_1 = v_2 \sin\theta_2 \quad \therefore \quad v_2 = \frac{\sin\theta_1}{\sin\theta_2} v_1$$

(A3) 点 O から点 P までの軌道に対する $A(\alpha)$ の定義は,

$$A(\alpha) = mv_1 \sqrt{x_1^2 + \alpha^2} + mv_2 \sqrt{(x_0 - x_1)^2 + (y_0 - \alpha)^2}$$

$A(\alpha)$ を α に関して微分し, その導関数を 0 とおくと,

$$\frac{v_1 \alpha}{(x_1^2 + \alpha^2)^{1/2}} - \frac{v_2 (y_0 - \alpha)}{[(x_0 - x_1)^2 + (y_0 - \alpha)^2]^{1/2}} = 0$$

$$\therefore \quad \frac{v_1}{v_2} = \frac{(y_0 - \alpha)(x_1^2 + \alpha^2)^{1/2}}{\alpha[(x_0 - x_1)^2 + (y_0 - \alpha)^2]^{1/2}}$$

これは, A2 の結果, すなわち, $v_1 \sin\theta_1 = v_2 \sin\theta_2$ と同等であることを注意せよ。

(B1) 領域 I における光速は c/n_1 であり, 領域 II における光速は c/n_2 である。ここで c は真空中の光速である。2つの領域を直線 $y = y_1$ で分けると, 光が原点 $(0, 0)$ から点 (x_0, y_0) まで進むのにかかる時間 $T(\alpha)$ は,

$$T(\alpha) = \frac{n_1 \sqrt{y_1^2 + \alpha^2}}{c} + \frac{n_2 \sqrt{(x_0 - \alpha)^2 + (y_0 - y_1)^2}}{c}$$

$T(\alpha)$ を α に関して微分し, その導関数を 0 とおくと,

$$\frac{n_1 \alpha}{(y_1^2 + \alpha^2)^{1/2}} - \frac{n_2 (x_0 - \alpha)}{[(x_0 - \alpha)^2 + (y_0 - y_1)^2]^{1/2}} = 0 \quad \therefore \quad n_1 \sin i_1 = n_2 \sin i_2$$

[注意: 導出過程は A3 と似ている。これがスネルの法則である。]

¹ Manoj Harbola (IIT-Kanpur) と Vijay A. Singh (前国立科学オリンピック・コーディネーター) が, この問題の責任著者であった。アカデミック委員会, アカデミック発展グループおよび国際役員に大変感謝する。

(B2) スネルの法則, $n_0 \sin i_0 = n(y) \sin i$, に, $\frac{dy}{dx} = -\cot i$ を用いると,

$$n_0 \sin i_0 = \frac{n(y)}{\sqrt{1 + \left(\frac{dy}{dx}\right)^2}} \quad \therefore \frac{dy}{dx} = -\sqrt{\left(\frac{n(y)}{n_0 \sin i_0}\right)^2 - 1}$$

(B3) $\int \frac{dy}{\sqrt{\left(\frac{n_0 - ky}{n_0 \sin i_0}\right)^2 - 1}} = -\int dx$ において, $i_0 = 90^\circ$ のとき $\sin i_0 = 1$ であることに注意す

る。

方法 I $\xi = \frac{n_0 - ky}{n_0}$ と置換すると,

$$\int \frac{d\xi \left(-\frac{n_0}{k}\right)}{\sqrt{\xi^2 - 1}} = -\int dx$$

ここで, $\xi = \sec \theta$ とおくと, 与えられた積分公式を用いて,

$$\frac{n_0}{k} \ln(\sec \theta + \tan \theta) = x + c$$

方法 II $\xi = \frac{n_0 - ky}{n_0}$ と置換すると,

$$\int \frac{d\xi \left(-\frac{n_0}{k}\right)}{\sqrt{\xi^2 - 1}} = -\int dx$$

ここで, もう 1 つの与えられた積分公式を用いて,

$$-\frac{n_0}{k} \ln \left(\frac{n_0 - ky}{n_0} + \sqrt{\left(\frac{n_0 - ky}{n_0}\right)^2 - 1} \right) = -x + c$$

さて, 境界条件 ($x=0, y=0$) より, $c=0$ を得る。こうして次の軌跡の方程式が求まる。

$$x = \frac{n_0}{k} \ln \left(\frac{n_0 - ky}{n_0} + \sqrt{\left(\frac{n_0 - ky}{n_0}\right)^2 - 1} \right)$$

(B4) $y_0 = 10.0\text{cm}$, $n_0 = 1.50$, $k = 0.050\text{cm}^{-1}$ が与えられている。(B3) より,

$$x = \frac{n_0}{k} \ln \left(\frac{n_0 - ky}{n_0} + \sqrt{\left(\frac{n_0 - ky}{n_0}\right)^2 - 1} \right)$$

$y = -y_0$ において,

$$\begin{aligned}
 x_0 &= \frac{n_0}{k} \ln \left[\frac{(n_0 + ky_0)}{n_0} + \left(\frac{(n_0 + ky_0)^2}{n_0^2} - 1 \right)^{1/2} \right] \\
 &= 30 \ln \left[\frac{2}{1.5} + \left(\left(\frac{2}{1.5} \right)^2 - 1 \right)^{1/2} \right] \\
 &= 30 \ln \left[\frac{4}{3} + \left(\frac{7}{9} \right)^{1/2} \right] \\
 &= 30 \ln \left[\frac{4}{3} + 0.88 \right] \\
 &= 24.0 \text{ cm}
 \end{aligned}$$

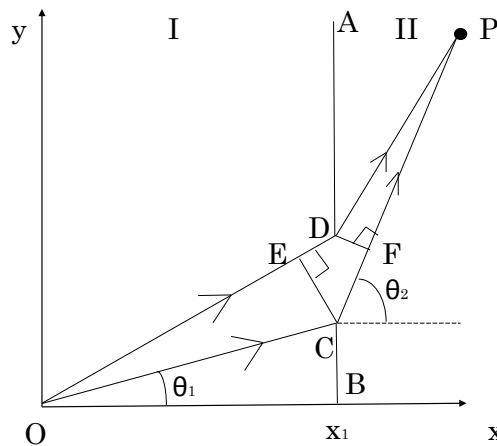
(C1) ド・ブロイの仮説より,

$$\lambda \rightarrow \lambda_{dB} = \frac{h}{mv}$$

λ をド・ブロイ波長として, 通常の波動と同じように計算をすると,

$$\Delta\phi = \frac{2\pi}{\lambda} \Delta s = \frac{2\pi}{h} mv \Delta s = \frac{2\pi \Delta A}{h}$$

(C2)



問題 A で導いた古典的経路 OCP と経路 ODP を考える。幾何学的な経路の差は領域 I の ED と領域 II の CF の差である。したがって ($d \ll (x_0 - x_1)$, $d \ll x_1$ に注意せよ),

$$\Delta\phi_{CD} = \frac{2\pi d \sin\theta_1}{\lambda_1} - \frac{2\pi d \sin\theta_2}{\lambda_2}$$

$$\begin{aligned}
&= \frac{2\pi m v_1 d \sin \theta_1}{h} - \frac{2\pi m v_2 d \sin \theta_2}{h} \\
&= 2\pi \frac{m d}{h} (v_1 \sin \theta_1 - v_2 \sin \theta_2) \\
&= 0 \quad (\text{A2 ないしは B1 の結果より})
\end{aligned}$$

こうして、古典的経路の近傍ではつねに物質波は強め合うことがわかる。

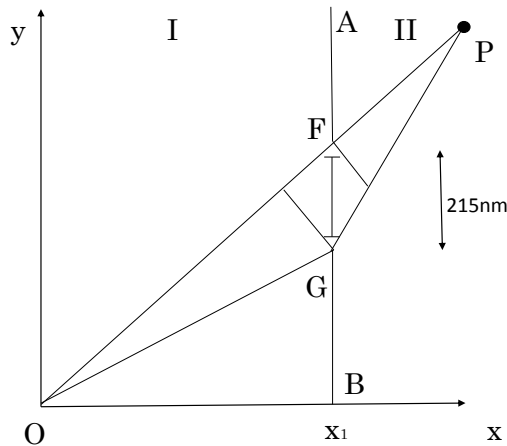
$$\begin{aligned}
\text{(D1)} \quad qU_1 &= \frac{1}{2} m v^2 \\
&= \frac{9.11 \times 10^{-31} \times 4 \times 10^{14}}{2} \text{ J} = 2 \times 9.11 \times 10^{-17} \text{ J} \\
&= \frac{2 \times 9.11 \times 10^{-17}}{1.6 \times 10^{-19}} \text{ eV} = 1.139 \times 10^3 \text{ eV} \quad (\cong 1100 \text{ eV}) \\
\therefore U_1 &= 1.139 \times 10^3 \text{ V}
\end{aligned}$$

(D2) 点 P における位相差は,

$$\Delta \phi_P = \frac{2\pi d \sin \theta}{\lambda_1} - \frac{2\pi d \sin \theta}{\lambda_2} = 2\pi (v_1 - v_2) \frac{m d}{h} \sin 10^\circ = 2\pi \beta$$

これより, $\beta = 5.13$

(D3)



電子の検出数が 0 になる点のうち点 P に最も近い点と F を結ぶ直線が FP となす角を $\Delta \theta$ とする。波が打ち消しあう条件は位相差が $2\pi \times (\text{整数} + 1/2)$ で表せることであり, $\beta = 5.13$ であることから, 位相差が $\Delta \phi = 2\pi \times 5.5$ となる点を考えればよいことが分かる。

$$m v_1 \frac{d \sin \theta}{h} - \frac{m v_2 d \sin(\theta + \Delta \theta)}{h} = 5.5$$

$$\begin{aligned}\sin(\theta + \Delta\theta) &= \frac{mv_1 d \sin\theta - 5.5}{\frac{mv_2 d}{h}} = \frac{v_1}{v_2} \sin\theta - \frac{h \cdot 5.5}{m v_2 d} \\ &= \frac{2}{1.99} \sin 10^\circ - \frac{5.5}{1374.78 \times 1.99 \times 10^7 \times 2.15 \times 10^{-7}} = 0.174521 - 0.000935\end{aligned}$$

これより, $\Delta\theta = -0.0036^\circ$ を得る。したがって,

$$\begin{aligned}\Delta y &= (x_0 - x_1)(\tan(\theta + \Delta\theta) - \tan\theta) = 250(\tan 9.9964 - \tan 10) \\ &= -0.0162 \text{ mm} = -16.2 \mu\text{m}\end{aligned}$$

負号は電子の検出数が 0 になる点のうち点 P に最も近い点は P の下にあるということを意味する。

$\Delta\theta$ と Δy の近似的な求め方

近似式 $\sin(\theta + \Delta\theta) \cong \sin\theta + \Delta\theta \cdot \cos\theta$ を利用する。

位相差 $\Delta\phi = 2\pi \times 5.5$ から,

$$mv_1 \frac{d \sin 10^\circ}{h} - mv_2 \frac{d(\sin 10^\circ + \Delta\theta \cdot \cos 10^\circ)}{h} = 5.5$$

また, (D2) の結果より,

$$mv_1 \frac{d \sin 10^\circ}{h} - mv_2 \frac{d \sin 10^\circ}{h} = 5.13$$

したがって,

$$-mv_2 \frac{d \Delta\theta \cos 10^\circ}{h} = 0.3700$$

ここから, $\Delta\theta = -6.39 \times 10^{-5} \text{ rad} = -0.0036^\circ$ を得る。前と同様にして $\Delta y = -16.2 \mu\text{m}$ が求められる。

(D4) 電子の速度と単位体積当たりの平均の電子数から強度は定まる。よって,

$$\begin{aligned}N = 1 &= (\text{強度}) \times (\text{断面積}) \times (\text{装置の長さ}) / (\text{電子の速度}) \\ &= I_{\min} \times 0.25 \times 10^{-12} \times 2 / (2 \times 10^7)\end{aligned}$$

これより, $I_{\min} = 4 \times 10^{19} \text{ m}^{-2} \text{ s}^{-1}$ を得る。